

大腸がん検診 ～便潜血検査を受けましょう～

部位別罹患数が一番多い大腸がん

国立がん研究センターが発表する最新のがん統計では、大腸がん罹患数は部位別で男女ともに2位を占め、男女合わせると1位であり、年間15.6万人が大腸がんとして診断されています。診断・治療の進歩があるとはいえ、2020年では年間5.2万人が大腸がんで死亡しており、男性3位、女性1位のがん部位別死因となっています。

“便潜血検査”で症状発現より先に診断

大腸がんは、40歳代頃から増加し始め、高齢になるほど多くなります。死亡率の増加を抑えるため、40歳以上を対象として便潜血検査を用いた検診が行われています。便潜血検査では、肉眼的に認識できないごく少量の出血を検出可能で、大腸がんの症状（便通異常や腹痛など）が出る前に陽性と検出されます。精度をより高くするために、2日間分の便を採取する方法（2日法）が一般的で、これで80%以上の大腸がんが検出できます。便潜血検査が陽性となる確率は約5～10%で、陽性になった人のうち、大腸内視鏡検査などで精密検査をして「がん」が見つかった割合は約3%と報告されています。

毎年の検査で死亡率60%減少

便潜血検査を用いた大腸がん検診は毎年行うことが重要です。毎年検査を行うことで、単年の検査よりも高い大腸がん死亡率が減少することが証明されています。毎年の検診受診で40歳以上の人の大腸がんによる死亡する確率を約60%減らすことができるという報告もあります。

まだまだ低い検診受診率

大腸がん検診の受診率は徐々に増加しているものの、男女ともに5割未満であり、さらに検診で陽性と判定された人のうち精密検査を受診したのは7割程度と低いことがわかっています。長崎県は都道府県別がん検診の受診率が低いことが問題となっており、2019年では大腸がん検診46位(36.7%)と全国平均を大きく下回っています。この結果は、大腸がんを早期発見できる機会を多くの人が自ら逃していることを示唆しています。

大腸内視鏡で精密検査

大腸がんは適切に診断・治療すれば治癒できる可能性が非常に高いがんです。大腸がんで命を落とさないために、大腸がん検診を受けることが非常に有用です。身体の負荷がなく簡便に検査を受けることができる検査ですので、積極的に受けて下さい。

便潜血検査で陽性と判定されたら、大腸内視鏡による精密検査を必ず受けてください。検査に抵抗のある方もいるかもしれませんが、多くの人が受けている一般的な検査で、検査時間は10分位で鎮静剤を使うことで苦痛も少なくなります。嫌がらずに勇気を出して受けてみましょう。

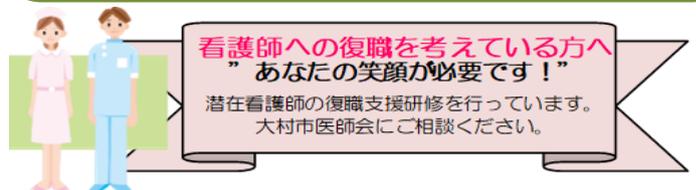
ながさき・おおば内科・消化器内科クリニック
院長 大場一生



大村湾と夕焼

【医心伝心】

日に日に寒さが増してきました。インフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行が危惧されています。ワクチンは同じ日に接種可能です。ぜひワクチン接種を受けて安心してこの冬を乗り切ってください。



看護師への復職を考えている方へ
“あなたの笑顔が必要です！”
潜在看護師の復職支援研修を行っています。
大村市医師会にご相談ください。